

《 疾病別 推移グラフ 》

《 月別 集計コメント 》

第44週 (R5.10.30~R5.11.5)

■ 今週のトピックス

▽ 今週(2023年第44週: R5.10/30-11/5)は休日を1日含みますが、インフルエンザは定点当たり22.3(前週20.5)と増加している。キットではA型の報告がほとんどですがB型もある。新型コロナウイルス感染症は減少傾向です。夏期に流行する感染症では咽頭結膜熱の多発が続くが、手足口病は減少傾向、ヘルパンギーナは少ない。

検査定点医療機関にはインフルエンザ・咽頭結膜熱・手足口病・ヘルパンギーナの検体提出をお願いします。

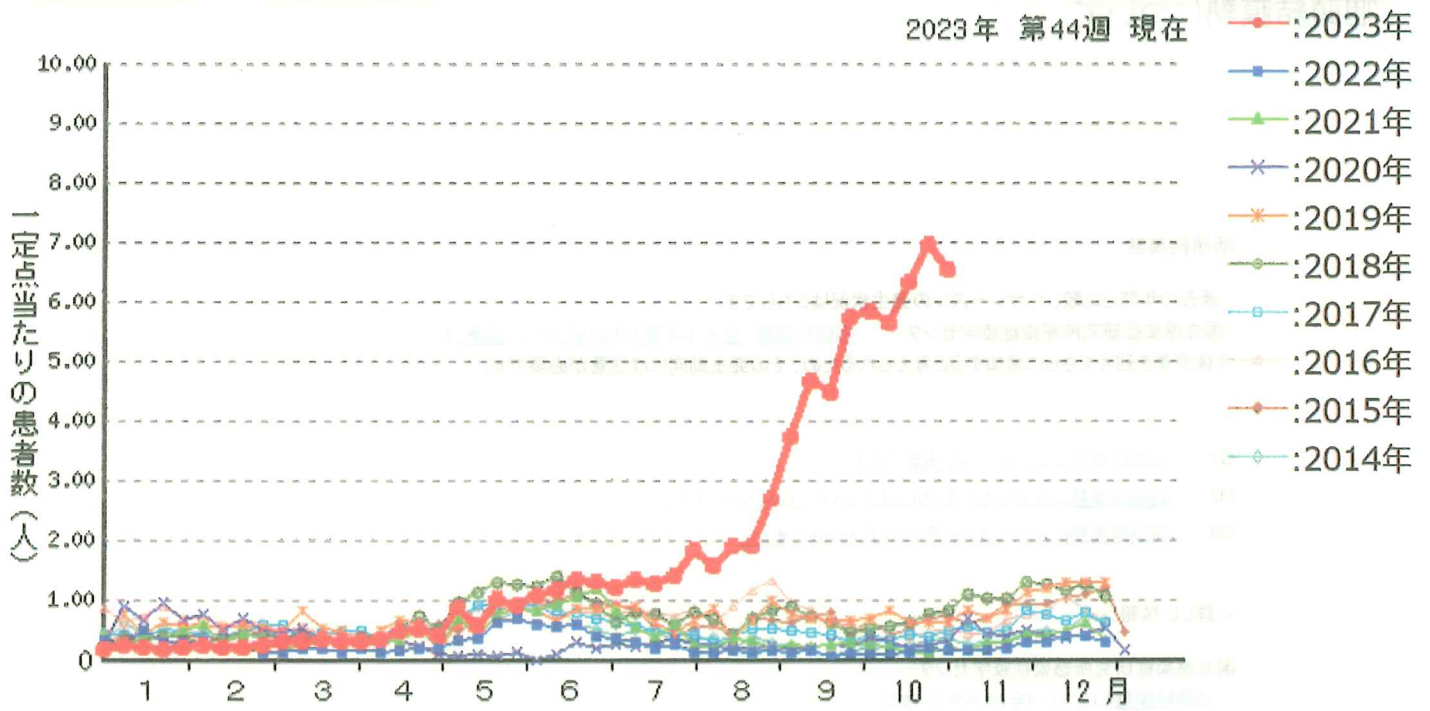
病 名	定点報告数	前週比	主な増加地区等	1定点当たりの患者数	
				福岡県	全国
インフルエンザ	4413	108%	福岡2438、筑後904	22.29	19.68
新型コロナウイルス感染症	312	85%	福岡175、筑後71	1.58	2.86
RSウイルス感染症	7	+3	福岡4、北九州2	0.06	0.08
咽頭結膜熱	781	93%	福岡353、北九州240	6.51	2.43
A群溶連菌咽頭炎	626	119%	福岡493、筑後74	5.22	3.05
感染性胃腸炎	533	82%	福岡240、筑後119	4.44	3.33
水 痘	11	-7	北九州6、福岡3	0.09	0.10
手足口病	131	75%	福岡79、北九州20	1.09	0.86
伝染性紅斑	0	-1		0.00	0.10
突発性発しん	43	148%	福岡20、北九州11	0.36	0.22
ヘルパンギーナ	27	-22	福岡15、北九州7	0.23	0.17
流行性耳下腺炎	5	+3	北九州2、福岡2	0.04	0.03
川崎病 (MCLS)	1	-8	筑豊1	0.01	
マイコプラズマ肺炎	2	-1	北九州2	0.02	0.05
クラミジア肺炎	0	±0		0.00	
細菌性髄膜炎	0	±0		0.00	0.01
無菌性髄膜炎	0	±0		0.00	0.04
急性脳炎	0	±0		0.00	
急性出血性結膜炎	0	±0		0.00	0.01
流行性角結膜炎	25	-23	北九州9、筑後7	0.96	0.83
性器クラミジア感染症	23	-6	福岡10、北九州8	0.62	
性器ヘルペス	10	-2	北九州5、福岡5	0.27	
尖圭コンジローマ	1	-6	筑後1	0.03	
淋菌感染症	7	-4	福岡4、北九州2	0.19	

※ 全数報告疾病 43週 (定点報告数は44週分)

病 名	定点報告数	全数報告数 (累計)	主な報告地区等	全国報告数 (累計)
百日咳	0	0(19)		15(806)
風しん	0	0(1)		0(11)
麻疹	0	0(0)		0(25)
梅毒	6	24(773)	福岡13、北九州8	188(12434)

■咽頭結膜熱 (福岡県全域)

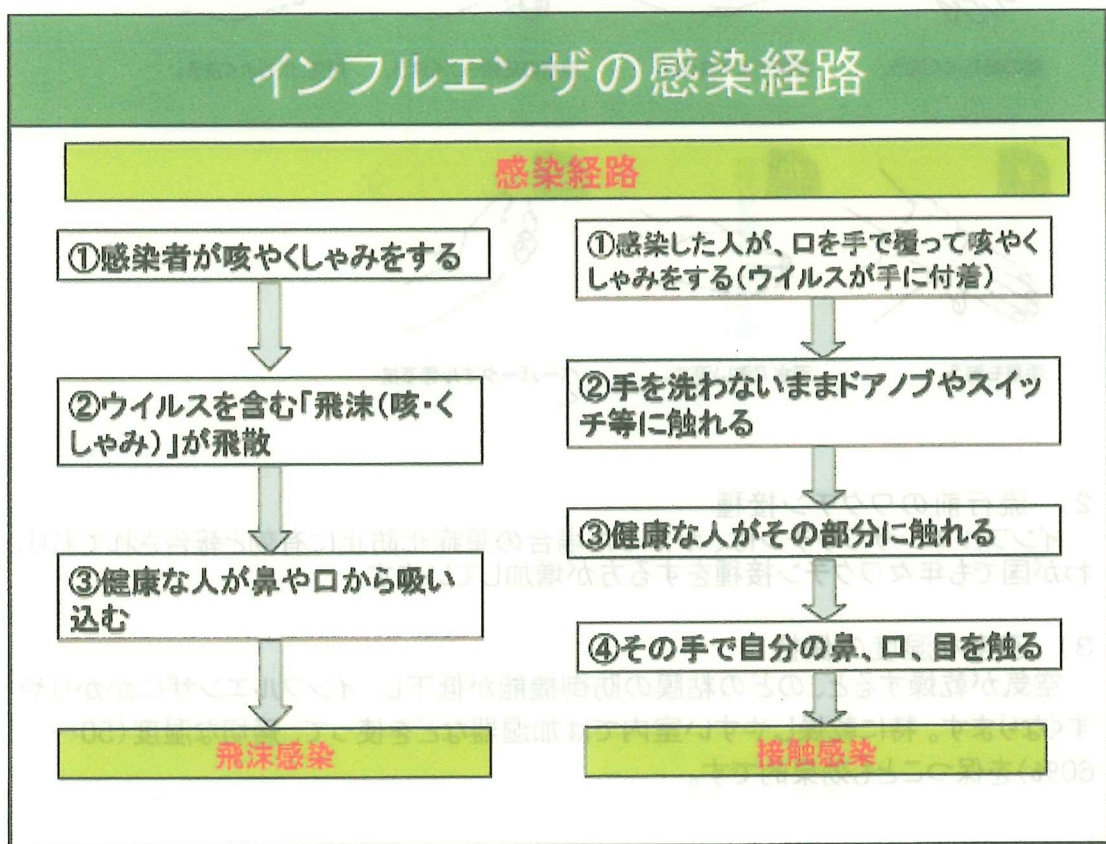
2023年 第44週 現在



インフルエンザの感染予防策について

1. インフルエンザはどうやってうつるの？

インフルエンザの感染経路は飛沫（ひまつ）感染と接触感染があります。飛沫感染は、感染した人が咳をすることで飛んだ、飛沫に含まれるウイルスを、別の人が口や鼻から吸い込んでしまい、ウイルスが体内に入り込むことです。また、感染した人が咳を手で押さえた後や、鼻水を手でぬぐった後に、ドアノブ、スイッチなどに触れると、その触れた場所にウイルスを含んだ飛沫が付着することがあります。その場所に別の人が手で触れ、さらにその手で鼻、口に再び触れることにより、粘膜などを通じてウイルスが体内に入り感染します。これを接触感染といいます。



2. インフルエンザを予防するためにはどうすればいいの？

【インフルエンザにかからないために】

1) 手洗いの実施

手洗いは手指など体に付着したインフルエンザウイルスを物理的に除去するために有効な方法であり、インフルエンザに限らず感染予防の基本です。また、外出後の手洗い、うがいは一般的な感染症の予防のためにもおすすすめします。

* 不織布製マスクとは

不織布とは「織っていない布」という意味です。繊維あるいは糸等を織ったりせず、熱や化学的な作用によって接着させて布にしたもので、さまざまな用途で用いられています。市販されている家庭用マスクの約97%が不織布製マスクです。



正しいマスク装着方法

- 鼻と口の両方を確実に覆います。
- ゴムひもを耳にかけます。
- フィットするように調節します。



効果のないマスク装着の例

- ×鼻の部分に隙間がある。
- ×あごが大きく出ている。

【インフルエンザを広げないために】

1) 咳エチケットの実施

周囲の人に感染を広げるのを防ぐため、咳エチケットを日ごろから実施しましょう。咳エチケットとは、「咳やくしゃみをするときは、飛沫に病原体を含んでいるかもしれないので、気をつけましょう」ということです。

- ・せきやくしゃみをするときは他の人から顔をそらせましょう。
- ・せきやくしゃみをするときはティッシュなどで口と鼻を覆いましょう。
- ・せき、くしゃみが出ている間はマスクを着用しましょう。

2) インフルエンザにかかったときに気をつけること

「他の人にうつさない」ことが大切です。

同居する他の家族、特に重症になりやすいお年寄りなどにはなるべく接触しないように心がけ、できるだけ他の家族と離れ静養しましょう。

- ・感染予防のため、部屋の換気を心がけましょう
- ・咳がでるときは、患者さんはマスクをつけましょう
- ・家族が患者さんと接するときには念のためマスクを着用し、お世話の後は、こまめに手を洗いましょう。
- ・熱が下がった後も、2日程度は他の人にうつす可能性があります。熱が下がって症状が治まっても、2日ほど学校にいかないようにし、自宅療養することが望ましいでしょう。

(参考資料)

・厚生労働省結核感染症課作成リーフレット

「インフルエンザ一問一答 みんなで知って、みんなで注意！」

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/dl/leaflet20110208_01.pdf

・厚生労働省HP「インフルエンザQ&A」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/qa.html>

インフルエンザの

患者さん・ご家族・周囲の方々へ

インフルエンザにかかった時は、飛び降りなどの異常行動をおこすおそれがあります。

特に発熱から2日間は要注意！

窓の鍵を確実にかけるなど、異常行動に備えた対策を徹底してください。

●異常行動による転落等の事故を防ぐためのお願い

- インフルエンザの患者さんでは、**抗インフルエンザウイルス薬の服用の有無や種類にかかわらず**、異常行動に関連すると考えられる転落死等が報告されています。
- 異常行動は、**①就学以降の小児・未成年者の男性で報告が多い(女性でも発現する)**
②発熱から2日間以内に発現することが多いことが知られています。

異常行動の例



- 突然笑い出し、階段を駆け上がろうとする
- 自宅から出て外を歩いていて、話しかけても反応しない
- 変なことを言い出し、泣きながら部屋の中を動き回る など

- 万が一の転落等の事故を防止するため、発熱から少なくとも2日間は、就寝中を含め、特に小児・未成年者が容易に住居外へ飛び出さないために、例えば、以下のような対策を講じてください。

